

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(動作分析)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ・POST共に解剖学、運動学レベルで動作分析できるようになる
- ・トップダウンにて評価できるようになる(若手向け)

●構造 structure

＜メンバー＞

訪問PT1名、OT1名、通所PT1名

＜実施頻度＞

月1回 30～40分

＜使用物品＞

動作分析に関する文献、パソコン、iPad

●過程 process

＜上半期＞

- ・新人に対して基本的な動作分析について説明
- ・新人の担当症例や困ってる事などをチームで共有し、動画を見ながら一緒に動作分析を実施

＜下半期＞

- ・トップダウンに沿いながら1症例についてチーム内にて検討(新人症例発表にむけて)
- ・インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップなど障害のレベルに分けながら評価や分析をチーム内にて実施

＜コアカリ＞

- ・入所、通所、訪問の利用者様の基本動作、食事場面、歩行場面の動画をみながらPOSの様々な視点から動作分析を実施

●結果 outcome

＜新人＞

- ・動作分析をすることで見る視点が広がった
- ・フィードバックをもらうことで自分の見えていない問題点に気付くことができた

＜多職種＞

クラークさん:実際に被験者をやってみて、タオル1枚や枕など簡易的なものだけでこんなに姿勢も変わって片麻痺の方達は楽になるのかと驚いたとのこと

STさん:動作分析という面ではPT、OTにはついていけなかったが、POSのみんなで1人の症例について話し合う機会ができてよかった

＜その他のメンバー＞

普段考える機会が少ないので新人指導を通して自分自身も今一度利用者様の評価等を振り返る機会になった

《次年度持ち越し課題》

STにも分かりやすい動作分析の説明